

奈良を愛する妻へ

奈良で育った僕たちが学生時代に出会って、23年。

3人の子供たちも、僕たちと同じように奈良で生まれ育って、君とお互いの両親と、奈良という素朴な土地柄のお陰で、素直に育ってくれています。

奈良って不思議ですね。

子供の頃は、「こんな田舎は嫌だ」と思っていました。

就職したときも、奈良県から通っているというのが、恥ずかしかった。

両親は大阪出身で、大阪の会社で職場結婚し、土地の安い奈良に小さい家を建て、僕が2歳の頃に引っ越してきた。

本籍は未だ、大阪のままで、そこには、家もない。

わざわざ大阪まで戸籍抄本を取りに行くのは面倒なのに、両親は大阪の本籍にこだわっている。そして、僕の本籍も未だに、そこに置いている。

心のどこかで、大阪出身であるということを残しておきたいのだろう。

奈良県出身で田舎モノ扱いされたときのために、「本当は大阪出身なんだ」って、言いたいのかも知れない。

僕は、男として生まれたからには、でかい仕事をしたいと思って、奈良での仕事から、大阪に変わって、今は、東京で単身赴任。

いつの間にか、結婚生活の中で単身赴任の期間のほうが長くなっている。

初めての転勤で、名古屋に単身赴任したとき、ちょうどインターネットが普及してきて、遠くにいながらも、地元の情報が入ってくるようになった。

僕は、古代史が好きで、古墳の魅力にハマっていた。奈良にいるときには、あまり興味がなかった小さな山が、実は、古代有力者の古墳であることをネットで知り、気がつけば、地元に戻るたびに、古墳廻りばかりで、まだ小さくて、何もわからない子供達は、山登り気分古墳に登ったりしている横で僕は、古代の想いにふけているという休日だったよな。

さすがに今では、古墳にも博物館にも誰もついてきてくれなくて、一人で行くことが多くなって少し寂しい思いをしている。

そのときに会ったのが、明日香の棚田の景色だ。

子供の頃は、素通りしていた風景が、大人になり、奈良が恋しくなってから見たその風景で癒された。

大好きな古代史と、その素朴な風景が、僕を明日香フェチにした。
棚田オーナーに応募して、子供達と棚田で田植えをし、自分自身がその景色になることに
幸せと感じた。

今でも、奈良に帰ると、暇さえあれば、明日香に行く。
どこに行く事もなく、ただただ景色を見ているだけで癒される。
高校生、中学生、小学生高学年になった子供達には
「また明日香!？」と呆れられ、妻と二人で行くことが多くなった。
僕としては、新婚時代から、子供にまわり付かれ、二人きりになれなかった夫婦の二人
の時間を明日香が取り戻してくれたと、内心ほくそ笑んでいる。

この連休で、3ヶ月ぶりに、帰ったときのこと、
小学生の息子と二人で、吉野の津風呂湖のボートに乗りました。
大自然の湖の上で、二人きりで、沢山話した中で、
息子は、「俺は、都会に出る」と、大きな夢を語っていました。

「奈良の良さは、ここから出て始めてわかるよ。たぶん、君もいつか自分の子供に同じこ
とを言うときが来る。」
「ふ〜ん」と、意味が分からずに答えていたけど
そのときがきて、僕が言っていた意味が分かればいいなと、
ささやかな将来の夢を思い描いていました。

今は、拒否している子供達も、大人になり、故郷を懐かしんだときに、小さいときに田植
えをし、親父がハマっていた明日香の本当の良さが分かる時が来ればいいな。

そろそろ、僕たちの本籍を奈良に移そうか。

田丸 順一（奈良県橿原市）